

大阪大学外国語学部フィリピン語専攻研究室



海外交流

大 上 正 直^{*}

Osaka University, School of Foreign Studies, Filipino Major

Key Words : Research Institute for World Languages

研究

大阪大学世界言語研究センター・フィリピン語研究室は私と外国人スタッフ（特任准教授）の2名で構成されています。研究プロジェクトとしては、「在日外国人児童生徒（フィリピン語母語話者）の母語能力測定基準・評価法の研究開発」（平成20年～22年科学研究費補助金）、電子媒体および紙媒体によるフィリピン語の教材開発のほかに、フィリピン語辞典の編纂などにも鋭意取り組んでいます。

教育

1. 専攻の紹介

旧大阪外国語大学フィリピン語専攻（1984年～2007年）を引き継いだ現大阪大学外国語学部フィリピン語専攻には私を含め3名の日本人スタッフと上記外国人スタッフがあり、私と外国人スタッフが言語関連科目を、他の2名が主として文化・社会関連科目をそれぞれ担当しています。そのほかに日本人とフィリピン人の非常勤講師の先生方が数名教鞭をとっています。

2. 交換留学

大阪大学は、フィリピンのトップ3と呼ばれているフィリピン国立大学（University of the Philippines。通称UP）、アテネオ・デ・マニラ大学（Ateneo de Manila University。私立の名門）およびデ・ラ・

サル大学（De La Salle University。私立の名門）とそれぞれ学術交流協定を締結しています。前者の2大学は旧大阪外国語大学時代より20年以上にわたり交流を続けてきている大学で、一方のデ・ラ・サル大学は大阪大学（理系）がかねてより交流している大学です。本学からはこれら3大学に毎年計約3、4名が1年間留学しています。他方、フィリピンからも多くの学生が留学に来ており、理系の学部を中心に、文系の学部にも在籍しています。

3. 卒業生の進路

学生の卒業後の進路は、国内の企業への就職が一般的ですが、中には学生時代に習得したフィリピン語を活かすべく、各都道府県の警察やフィリピンの日系企業・マスコミに就職したり、在日フィリピン人児童生徒の教育・日本語・母語支援や法廷通訳の仕事に就く者も少なくありません。

なお、昨年12月の日比経済連携協定の発効を受け、多くのフィリピン人看護師・介護士が来日し、医療機関や介護施設に正式に派遣されることになるため、今後、フィリピン事情に精通している卒業生がこれらの分野でも日比両国の橋渡し役としての役割を担ってくれるものと期待しているところです。

4. OGF（大阪大学外国語学部フィリピン民族舞踊団）

旧大阪外国語大学時代（1997年）に創設された文化サークルです。大阪大学との統合後も、在大阪フィリピン総領事館主催のイベント、本学関連行事（いちよう祭、夏まつり、およびまちかね祭）などの機会のみならず、関西の幼稚園・小中学校にも積極的に出かけていき、公演を通じてフィリピン文化を紹介しながら、日比友好関係増進に貢献してくれています。



^{*} Masanao OUE

1954年3月生

フィリピン国立大学大学院フィリピン語・フィリピン文学研究科修士課程修了（1982年）

現在、大阪大学世界言語研究センター（アジア言語文化圏研究部門Ⅱフィリピン語）教授 文学修士 フィリピン語学

TEL : 072-730-5274

FAX : 072-730-5274

E-mail : oooue@world-lang.osaka-u.ac.jp



まちなね祭 OGF 公演

フィリピン語の現状と特徴

フィリピン語 (Filipino) とは、フィリピン諸語の中でも最大の話者数を誇り、政治経済の中心であるマニラ周辺で使用されているタガログ語を母体にして、他のフィリピン諸語や英語などの外国語からの借用語も取り入れながら徐々に発展している国語のことを指します。1987 年憲法にも国語はフィリピン語である旨、また公用語はフィリピン語および英語の両言語である旨謳われています。したがって、学校教育の現場でも、この両言語が教授用語として併用されている状況です。

ただ、現時点においては、フィリピン語の言語実体は、タガログ語と同じであるため、本稿では、タガログ語に読み替えて解説させていただきます。

1. 系統・特徴

タガログ語は、西はマダガスカル島、東はイースター島、北は台湾、南はニュージーランドにいたる地域内の言語集団であるオーストロネシア語族 (従来の呼称はマライ・ポリネシア語族) に属します。そのため、インドネシア語やマレー語とは、文法構造は大きく異なるものの、音韻や基礎語彙の面でお互いに相通じる特徴をもっています。また、諸外国による統治や外国人の往来などにより、スペイン語、英語、中国語 (閩南語) などから、多くの語彙が、ほぼそのまま、あるいは変形して、タガログ語の音韻体系や正書法 (綴り) に沿うかたちで取り入れられています。さらに、これらの借用語以外に、西のスマトラやジャワなどで 7 世紀から 15 世紀ころま

でインド文化を礎に勃興し、隆盛を極めたいくつかの王国の東への支配拡大等にもともない入ってきたともいわれているサンスクリット語起源の語彙や、14 世紀ころにスルー諸島に伝わったとされるイスラム文化の影響を受けたアラビア語からの借用語が見られるも大変興味深い点です。

2. 構造・語順

タガログ語をはじめとして 150 以上にのぼるフィリピン諸語は、英語などの構文とは異なり、(1) の例文のように基本的に述部が主部の前に来るといふ文法構造を持っています。

(1) Doktor si Ben.

医者 主格 ベン

(ベンは医者だ)

基本的な語順

世界の言語の基本的な語順を示す際によく用いられるのが、主語(S)、動詞(V)、目的語(O)の並び方です。世界の言語のほとんどが、SVO 型 (英語型) や SOV 型 (日本語型) であるのに対し、タガログ語は、以下のとおり、基本的に VOS 型ないしは VSO 型をとります。

(2) Kumain ng saging si Al.

V+ 食べる 属格 O(バナナ) 主格(人名) S(アル)

(アルはバナナを食べた。)

(3) Kumain siya

V(行為者焦点)+ 食べる S(主格彼・彼女)

ng saging.

属格 O(バナナ)

(彼/彼女は、バナナを食べた。)

主格(S)が(2)のように人名(Al)や普通名詞の場合には、OとSの交替は、可能ですが、(3)のように、主格が人称代名詞の場合は、それが文の二番目をとるという性質から基本的に VSO 型となります。

所有格(属格)と名詞の関係

人称代名詞の所有格(属格)と名詞の関係は、基本的に(4)のように、後ろから前の名詞を修飾するという後置型が一般的ですが、(5)のakin(斜格:「私の」「私に」)のように前置型も可能です。ただし、その場合は、単語と単語をつなぐリンカー(繫辞: -ng, na など)が必要になります。口語では、(4)の語順が(5)より一般的です。なお、(6)のように人名の場合には、後置型のみが可能です。

(4) kotse ko
車 私の

(私の車)

(5) aking kotse 私の車
私の+リンカー 車
(私の車)

(6) kotse ni Jane
車 属格(人名) ジェーン
(ジェーン的車)

関係節と名詞

英語は、通常、関係節が名詞(先行詞)に後行するという構造になりますが、タガログ語は、(7)のような英語型と(8)のように関係節が名詞(adobo)に先行する日本語型の構造を併せもっています。

(7) Maganda ang babaeng
美しい 主格 女(先行詞)+リンカー
nakaupo doon.
座っている あそこ
(あそこに座っている女性は美人だ。)

(8) Masarap ang niluto
おいしい 主格 対象焦点動詞+料理する
niyang adobo.
属格+彼・彼女+リンカー アドボ
(彼女の料理したアドボはおいしい。)

3. 焦点と相

タガログ語の文法的特徴として最も注目されているのが、焦点(フォーカス)構造で、態(ヴォイス)などとも呼ばれるものです。たとえば、(9)のように、意味的に「行為者」を表す名詞句が主題(話題)になれば、その句が主格になり、述部にくる動詞にもそれを示す「行為者焦点」の接辞(mag-, nag-など)が付加されるというものです。また、(10)のように、行為の「対象」が主題となる場合には、当該名詞句が優位性をもち、主格をとり、「行為者」は(主格でなく)属格に降格となり、動詞にも-IN-やI-といった「対象焦点」であることを示す接辞が付加されます。焦点となる要素には、これら以外にも「方向」、「場所」、「受益者」、「手段・道具」、「原因・理由」などがあり、能動態と受動態しか見られない英語などとは大きく異なります。

なお、タガログ語の動詞は、「時制」はなく、動

作や状態が「未開始」(不定相または未然相)か「既開始」(完了相または未完了相・継続相)かという、いわゆる「相」の概念で表されます。相は、動詞を活用させることによって、一方、「過去」「現在」「未来」といういわゆる「時制」は、(11)や(12)のように通常、「昨日」「今」「来月」といった時を表す副詞などを補っていくことによってそれぞれ表わします。

(9) Nag-aaral sila
行為者焦点+勉強する 主格+彼ら・彼女ら
sa Maynila.
斜格 マニラ
(彼ら・彼女らマニラで勉強している。)

(10) Ibigay mo sa kanya
対象焦点+与える 属格+あなた 斜格+彼・彼女
ang kompyuter.
主格 コンピューター
(そのコンピューターを彼・彼女にやりなさい。)

(11) Naglalaba kami noon.
行為者焦点+洗濯する 主格+私たち そのとき
(そのとき私たちは洗濯中であつた。)

(12) Naglalaba kami ngayon.
行為者焦点+練習する 主格+私たち 今
(私たちは今洗濯中だ。)

フィリピン語の正書法はローマ字表記のため、これまでの企画で取り上げられた言語で使われているような特殊な文字の紹介を兼ねた当該言語での要約を付すことが出来ません。従いまして、以下のとおり簡単なものととどめさせていただきました。

Ipinakilala ko ang mga organisasyon o departamento na may kinalaman sa Araling Pilipino sa Unibersidad ng Osaka tulad ng Linangan ng mga Pandaigdigang Wika at Paaralan ng Araling Pandaigdig. Nabanggit ko rin ang mga aktibidades ng OGF na isang grupo ng mga estudyanteng aktibo sa pagpapalaganap ng mga awit at sayaw ng Pilipinas.

At ipinaliwanag ko rin naman ang mga pangkalahatang katangian at istruktura ng wikang Filipino bilang wikang Pambansa ng Pilipinas.